

「クモの巣」と「班長」

「クモはどうして自分の作った巣に引っかからないのだろうか？」
中学時代、不思議に思った私は、夏の1研究で調べてみました。
すると、あることがわかりました。

クモの巣には縦系と横系があり、粘り気があってくっつくのは横系です。クモは縦系の上を上手に移動します。獲物が引っかかるのを待つクモが巣の中心にいるのはそのためなのです。

縦系だけの巣では、獲物をゲットできません。引っかかってもすぐに逃げていってしまうことでしょう。横系があるからクモの巣に獲物がかかるのです。獲物をゲットできる秘密は横系にあります。

昨日、「横につながる委員会」というタイトルでメッセージを書きました。実は、もう一つの「横につながってほしい存在」があります。それは班長です。班長が横につながれば、学級の生活は確実に向上します。級長一人の力よりもはるかに強力です。

班長が横につながるとはどういうことか、わかりますか。それを説明しましょう。

それぞれの班には「○○班」という名前がついていますよね。その○○に関しては、その班がリーダーシップを発揮すべきですが、その班に丸投げの状態が、クモの巣でいうと「縦系だけの巣」にあたります。そういう巣には獲物がかからないように、働きかける割には成果が上がりません。

それでは、どうしたらよいのでしょうか。簡単です。横系を張ればよいのです。つまり、○○班が働きかけていることに、自分の班の班員がどのような反応をしているかを他の班長が確実に見届け、必要であればたしなめるのです。それを班長がやっていないようなら、「君の班の△△君と□□さんはいつもしゃべりしているから、班長としてやめさせてくれないか」と、協力要請ができる関係を班長間に作らなければなりません。

級長が声を張り上げて、全体に注意喚起するよりも、班長が自分の班員の数名を責任もって束ねるほうが、はるかに効率的で組織的です。したがって、学級を高めるキー・パーソンは、私は班長だと思っています。

班長が力を発揮し、引き締まった班がそろえば、級長はその頑張り認め励ますだけでよくなります。「楽ができる」というのはおかしいかもしれませんが、班長が活躍し、その分やきもきしなくともよくなった級長には、魅力的なアイデアや余裕が生まれるかもしれません。

職員室を学級に例えると、校長の私が級長です。班長にあたるのは学年主任です。学年主任が学年をしっかりと束ね、安心して担任や副担任が活躍できているのが今の瑞浪北中学校です。毎日のメッセー
ジが書けるのも、職員たちのおかげです。感謝、感謝です！

(十月一日記)